

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立東山東小学校
校長氏名	山下 真二
作成日	令和 3年 2月 22日

1 教育目標

生きる力をはぐくみ、心身ともに健やかで、明日の社会を築く豊かな創造性と実践力を持つ子どもの育成。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域に開かれた学校
指標	・県学習到達度調査で県平均を上回る ・わかる授業、児童が主体的に取り組む(児童80%)	・学校が楽しい(児童90%) ・いじめ解消率100%	・新体力テストで全国平均を上回る ・早寝早起き朝ごはん90%	・地域とかかわった実践を全学級で実践 ・学校の様子がよく伝わった(保護者80%)
重点目標	◎基礎・基本の定着 ◎子ども主体の授業の推進 ○学習習慣の確立	◎互いを認め合う仲間づくり ◎体験活動の充実 ○道徳教育の充実	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成	◎家庭・地域連携の充実 ◎地域人材の活用推進 ○積極的な情報の発信
取組の状況(D)	・「和歌山の授業 基礎・基本3カ条」を全教員に徹底させ、授業の充実を図った。 ・コロナの影響を受ける中でも、和歌山大学教職大学院と共同研究を進め、アドバイス等もいただきながら各人の授業力アップを図った。 ・学習の手引きの活用とともに、中学年以上では自主学習ノートを活用し、主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせた。 ・難問クイズ等で考える楽しさを味わわせる場を設けた。	・コロナによる風評被害や人権侵害が起こらないよう、児童に指導するとともに、文書等により保護者にも啓発を行った。 ・コロナ禍における3密対策等の実施を行いながらも、児童のストレスに極力ならないよう工夫しながら取り組んだ。	・基本的な運動の取り組み方について学習し、基礎運動力の向上を図った。 ・コロナに対する正しい認識と対策の仕方について指導し、クラスターが起こらないよう全力を尽くした。 ・「フッ化物洗口」を継続して行い、児童の歯の健康の増進を図った。	・学校・学年だよりを通し、また、それをHPに掲載して学校での取り組みを保護者・地域に公開した。 ・コロナ禍の影響で活動が制限される中、地域の方々の協力を得て、これまでの活動を絶やさぬよう、できることを考え、縮小はしたものの、工夫しながら取り組んだ。 ・上記の活動を協働意識をもって取り組めるよう事前打ち合わせや事後の反省を綿密に行った。
取組の成果と課題(評価結果C)	・全国や県に比べても、無回答率が非常に低く、最後まで問題に取り組む姿勢が身についた。 ・授業で「学びあい」の場が多く取り入れられるようになり児童の説明する力がついてきた。 ・毎週の「うちどく」では非常に積極的な児童が増え、読書に親しむ習慣を身に付けた児童が増加した。 ・県学習到達度調査では県平均を上回れない学年・教科もあった。	・コロナ禍による風評被害や、自由に行動できないストレスからくる問題行動等が、全国では取り上げられる中、コロナ対策を工夫しながらも、通常と変わらぬ様子で元気に活動することができていた。 ・児童アンケートで「学校が楽しい」99%	・コロナ対策を十分考え、3密を避けたり、換気を心掛けたりと工夫して取り組むことができた。 ・本校の取り組みが評価され令和2年度全日本学校歯科保健優良校表彰奨励賞をいただいた。	・コロナ禍の中、様々な制限を受けるも、交流を絶やさず、工夫して活動できた。山東まちづくり会との連携が深まった。 ・せっかくの昨年度までの取り組みを実施できなかった事例もあり、残念だった。 ・保護者アンケート「学校の様子がわかりやすく伝わった。」80%
改善方法(A)	・これまで以上に、授業において児童の「学びあい」の場をより多く設ける。 ・難問クイズでは、もっと多くの児童が考え、表現する場として積極的に参加できるよう工夫したい。 ・「うちどく」表彰を継続し、より読書習慣を高めていきたい。 ・これまでの取り組みを振り返り、再度研究の方向性について話し合い取り組んでいく。	・「縦割り活動」や「みんな遊び」を実施して、より良い学級の雰囲気作りに努める。(新型コロナウイルスの状況による。) ・特別な教科道徳について「考える道徳」の効果的な学習についてさらに研究を深める。	・「フッ化物洗口」を継続して行い、児童の歯の健康の増進を図る。 ・基礎的な運動についてさらに研究し、児童の基礎運動力を高めたい。	・来年度はさらに、地域の方々や山東まちづくり会との交流を増やし、子ども達に様々な実体験をさせたい。 ・本年度の活動を生かし、よりよい形で交流の仕方を考えていきたい。

3 その他の課題

・校舎や学校設備の老朽化のため、ドアの開閉、教室の照明の不具合が多発する。また、その都度、修繕しても、設備そのものが劣化しているため、根本的な解決になっていない。特に体育館の外壁の劣化や汚れが目立つ。
・カウンセリングができる場所の確保や万一クラス増設の場合の教室の確保が困難である。
・通学路についても、狭いところや車の交通量が多い箇所もあり、民生児童委員、育友会、学校職員等が定期的に通学路に立ち、児童の安全の確保を図っている。(コロナの影響で実施できなかった面も有) 困難ではあると思うが、道路の拡幅や、それに伴う、歩道の設置が必要な箇所がある。